

# 補聴器およびワイヤレス対応機器の電波が ペースメーカーなどの医療機器へ及ぼす影響について

- 総務省発表の「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器等へ及ぼす影響を防止するための指針」によれば  
**「携帯電話端末を植込み型医療機器の装着部位から15 cm程度以上離すこと」**となっております。

- 当社の補聴器およびワイヤレス対応機器の放射出力電力は、

補聴器 (2.4GHz対応モデル)	0.17mW (2.4GHz)
テレビ用 TV-DEX コントローラー	1 mW (2.4GHz)
携帯電話用 COM-DEX	2.5 mW (2.4GHz)

であり、これを携帯電話（出力は250mWと想定）の場合との比較で換算すると、  
**「植込み型医療機器の装着部位から 1.5 cm程度以上離すこと」**  
となります。

これは実使用上問題ない範囲です。

また、補聴器が発する磁界強度は、-15dB $\mu$ A/m程度です。

- 担当医師あるいは医療機器メーカーに 上記数値を提示の上、確認されることをお勧めします。

なお、補聴器自体が発する電磁界は非常に微弱であることから、ペースメーカーへの影響はなく、問題なく使用できます。

日本不整脈デバイス工業会（旧 ペースメーカー協議会）のWebサイトにある文書  
「ペースメーカー、ICDをご使用のみなさまへ」2013年(2015年10月改訂)  
によれば、補聴器は「使用上心配のない機器」に分類されております。

<http://www.jadia.or.jp/images/poster/wide/2013.pdf>

人工内耳との併用に関して

人工内耳と補聴器を同時に使用されても問題ありません。

ただし、ワイヤレス補聴器を調整する際に、フィッティングソフトから補聴器へのデータ通信が、人工内耳の体外部から体内部への通信に影響される場合がありますので、その際には人工内耳をオフにして、補聴器の調整を行ってください。